

### 全ての子供の成長、発達のための 子育て支援体制は

**問** 発達に課題を持つ子供の支援体制の現状と今後の取組は。

**答** **福祉事務所長**／保健師が健康診査等において支援が必要と判断した場合、関係部署等と連携して適切な指導や情報提供を行うなど、母子保健と児童福祉の両面から切れ目のない支援を行っている。令和四年の改正児童福祉法により、令和六年四月から市町村に、**こども家庭センター**の設置が努力義務化された。そのため、今後は同センターの設置を検討するとともに、切れ目のない支援体制の一層の充実を目指していく。

**問** ふじのくにジュニア防災士養成講座の受講状況と今後の取組は。

**答** **危機管理監**／本講座は、県が地域防災の担い手育成のため小中高生を対象に実施しており、県全体における参加校数は直近三年間で延べ五百七十九校、このうち本市の参加校数は延べ二十五校である。受講者数は年々増加傾向にあり、今後も受講者のさらなる拡大に向けて講座の周知を行うとともに、地域防災訓練等においてジュニア防災士に役割を与えるなど、地域に浸透する仕組みづくりを自治会等と検討していく。

大草 満



### 床上浸水被害が頻発している 大平地区への対策は

**問** 大雨等により床上浸水被害が頻発している大平地区への対策は。

**答** **建設部長**／大平地区では、これまでに大平江川の河道改修を進めており、併せて流域治水を推進する施策として、沼津市（大平地区）水災対策プランに基づき、令和元年東日本台風と同規模の洪水に対し、床上浸水をおおむね解消することを目指し、計画排水量の見直しを行った。また、令和三年度には、国が改築した尻尻樋管と市の排水機場を接続する水路が完成し、自然流下能力が向上した。大平江川排水機場について

は、今年度中に排水機場の下部工事に着手し、令和八年度の供用開始を目指して整備を進めている。

**問** **準用河川**の氾濫リスクへの対応策は。

**答** **建設部長**／市内の常襲浸水地域における水害の発生要因を分析し、地域や河川の特性に応じた効果的な対策を講じるほか、短期的な水位低減対策として、しゅんせつを実施していく。また、集水域から氾濫域にわたるあらゆる関係者が協働して行う流域治水を推進し、防災・減災に向けて計画的に取り組んでいく。

佐藤 健一郎



### チャットGPT等の生成AIへの 教育現場の対応は

**問** 教育現場におけるチャットGPT等の生成AIの活用について、①本市の認識と対応は。②宿題・自己学習における保護者とのルール設定に対する本市の考えは。

**答** **教育長**／①チャットGPT等の生成AIについては、AIによる誤回答や、成果物がAIにより作成されたものか否かを見分けることが困難であること、子供たちの創造性への影響、個人情報・著作権等の取扱など、教育現場で活用する上で様々な課題があるものと認識している。一方で、情報活用能力は情報化社会

を生きる現代の子供たちにとって大変重要な能力であることから、今後国が策定するガイドラインを参考に、本市における活用方法を検討していく。②家庭における生成AIの利用については、各家庭の判断に任せるのではなく、一定のルールづくりが必要であると認識している。今後は、本市の対応を検討するとともに、保護者や生徒に対して利用時の注意喚起を行うほか、研修等により、成果物を受け取る立場である教職員の生成AIに対する理解や判断力の向上に努めていく。

渡部 一二実



### ごみ集積場所の使用に関する トラブル解決策は

**問** 自治会等で管理するごみ集積場所の使用をめぐる、自治会未加入者等とのトラブル解決に向けた本市の取組は。

**答** **生活環境部長**／ごみ集積場所の使用をめぐるトラブルの解決策として、自治会等の未加入者には、有料とはなるが、清掃プラントへの自己搬入や一般廃棄物処理業者による回収を案内するほか、集積場所の維持・管理にかかる費用負担などについて、集積場所の管理者と話し合うよう助言を行っている。今後は、集積場所の管理者に対し、トラブル解

決事例の情報提供を行うとともに、家庭ごみの清掃プラントへの自己搬入の無料化について、他市の状況等を調査研究していく。

**問** 火災により発生した廃棄物を清掃プラントへ自己搬入できない被災者への対応は。

**答** **生活環境部長**／火災や放水により被害を受けた布団や家具など、家財の一般廃棄物の戸別回収は行っていないが、被災者が最寄りの埋立てごみ集積場所に分別排出し、その旨の連絡を受けた場合は適宜回収するなど、柔軟な対応に努めていく。

梶 泰久

